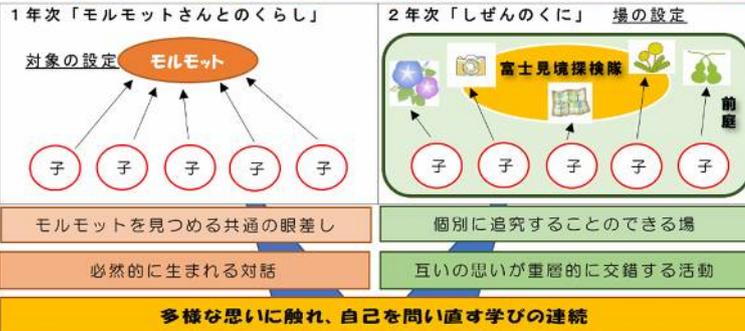


『多様性を包み込む』ことは、できるのか？

探究的な学びの中で、自らを問い直し続けていく子ども
 ～多様な思いを発揮する2年間の生活科の学習を通して～

川上村立川上第二小学校 片岡 聡矢

1. 自己を問い直し続けていく学びの構造



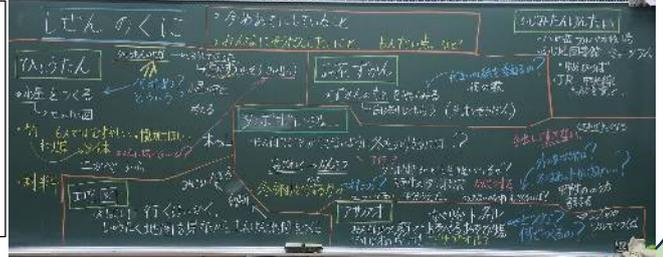
大事にすべきは、単元構想と子どもの願いの醸成

多様な願い、子どもの個性を受け止めながら、協働的で探究的な学びが連続する生活科の学習をどのように推進していったらよいかを模索し続けた2年間。
 子どものやりたいことを思いっきり実現するために、子どもの願いを醸成する段階を大事にして題材の展開を始めていった。

2. 一人ひとりの学びを保障する単元展開で大事にしたこと

学習材・場の設定を重要視する
 個性的な追究が保障される学習材
 ○学習材の研究
 ○外部機関との連携
 子どもの願いが膨らみ、動き出すのを「待つ」ための準備が重要

対話的な学びの場を実現するために
 対話の型、信頼関係の構築、評価
 「朝ミーティング」
 →日常的な学級全体での雑談
 「個の追究と対話の往還」
 →対話の活動を学習位置づけ



3. 自らを問い直し続ける子どもの姿

1年次 対象と自分との関わりを捉え、よい生活に向けて自分の暮らしを問い直す子ども

考え、願う
 しらべても、ゲージのおうちしかでない！
 ゲージのおうちは かわいそう！おりに はいっているみたい。
 き の おうちがいいな。
 つくってると、しんがかるなあ
 モルモットさんには、すくてほしい。



2年次 友と共に対象に働きかけ続ける中で、自らを問い直し続けていく子ども

やりたいことをおもいっきり
前庭で活動する5つのグループ
 ①タンポポレンジャー
 ②ひょうたんづくり
 ③アサガオお花ランド
 ④お花ずかんづくり
 ⑤地図(たんけん)グループ

粘り強く探究する友の姿に刺激を受ける仲間たち



タンポポレンジャーも、他の活動の姿に刺激を受ける仲間



グループの関係性の中で自らのあり方を問い直し始める子ども



4. 子どもの中に育まれたもの

自己の願いを表出し、友と響き合う子ども
 ありのままの自己を見つめる子ども
 自ら学びの道筋を作り始める「学ぶ集団」

本実践における「多様性を包み込む」とは…

自分が見えている対象と友が見ている対象の見え方の違いが活動を通してわかることで、自分自身のあり方を見つめ直したり、友のよさを実感したりでき、お互いの追究を大事にし合える資質が目覚め、発揮されていくこと。